

事業群評価調書 成果指標
未達成状況調査票
(令和元年度分)

未 達 成 項 目

- ① 埋蔵文化財センター管理運営費
遺物の保存処理完了点数（点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ② スポーツ大会費
県内開催の全国・九州大会等の大会開催数（件）・・・・・・・・・・ 2
- ③ 学校体育研究推進費
体力テスト結果が全国平均と同レベルもしくは上回るレベルの割合（％）・・・ 3
- ④ 学校保健研究推進費（食物アレルギー対策事業費）
学校給食アレルギー事案件数（誤配食）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ⑤ 図書館管理運営費
県立図書館から市町立・学校図書館等への蔵書貸出冊数（冊）・・・・・・・・ 5
- ⑥ 長崎県学力調査実施事業、児童生徒の学力向上のための非常勤講師等配置支援事業
県学力調査で6割以上理解している児童生徒の割合（小・中学校）（％）・・・・ 6
- ⑦ 郷土学習資料作成事業
郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合（小・中学校）（％）・・・・ 7
- ⑧ 長崎から世界へ！高校生グローバルチャレンジ
本事業対象校において高校又は大学で長期海外留学を希望する生徒の割合（％）
・・・・・・・・・・ 8
- ⑨ 家庭教育支援対策事業
「ながさきファミリープログラム」の参加者数（人）・・・・・・・・・・・・ 9
- ⑩ ふるさを活性化するキャリア教育充実事業
ふるさとのためにできることを考える拠点校の生徒の割合（％）・・・・・・ 10
- ⑪ 高校生の離島留学推進事業
離島留学制度による留学者数（入学者選抜における合格者数）（人）・・・・ 11

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 学芸文化課

基本戦略名	2	交流を支える地域を創出する
施策名	(2)	文化・スポーツによる地域活性化
事業群名	②	伝統文化の継承と文化財の保存・活用
事務事業名	3	埋蔵文化財センター管理運営費
成果指標		遺物の保存処理完了点数(点)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
230点 (H27)	230点	187点	× (81%)	130点

※ R1目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【○】達成≥100%、100%>【△】概ね達成≥90%、90%>【×】未達成

■R1年度の主な取組

木製品21点、金属製品157点、土器等その他の材質9点の保存処理を完了している。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

当初成果指標目標値の設定を行ったH26年度において、翌年度以降数年間の保存処理計画を230点と見込んでいたことから目標値と設定しており、引き続きR1年度の目標値も230点と設定した。

しかしながら、以前は木製品が多く、多数の遺物の処理が可能であったが、近年は金属製品が多く錆び取りなど時間を要する作業が多いことから、保存処理点数が減少傾向にあり、結果として目標値達成には至らなかった。

なお、単年度ごとの保存処理計画に照らして見ると、H30年度は138点の計画値に対して、239点の実績値、R1年度は138点の計画値に対して、187点の実績値と、計画値を超える点数の保存処理を完了することができている。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

R2年度の目標値は、保存処理計画の計画値に合わせて130点と見直しを行った。埋蔵文化財保護のため、引き続き、出土品の特徴に応じた適切な保存処理に努める。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

埋蔵文化財の適切な保護と普及啓発の推進を図るため、引き続き、県内の埋蔵文化財の発掘・調査研究や、出土品の保存処理・収集保管を行うとともに、彦岐市立一支国博物館と連携した普及啓発を推進していく。

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 体育保健課

基本戦略名	4	生きがいを持って活躍できる社会をつくる
施策名	(1)	いつまでも健康で活躍できる社会の実現
事業群名	④	子どもたちの体力の向上と学校体育の推進
事務事業名	1	学校体育研究推進費
成果指標		体力テスト結果が全国平均と同レベルもしくは上回るレベルの割合(%)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
73% (H24)	100%	55.9%	× (55%)	100%

※ R1 目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【O】達成 \geq 100%、100% $>$ 【△】概ね達成 \geq 90%、90% $>$ 【×】未達成

■R1年度の主な取組

・継続して体力向上アクションプランの作成・実践及び報告を求めた。また、教員の指導力の向上をねらい、教科体育・保健体育及び運動部活動の指導者研修会等開催、関係団体からの専門的な知識を持った外部指導者の派遣を行った。また、学習指導要領改訂を受け、教育課程説明会を実施した。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

・体力テストの合計点の結果は全国的に小中学校とも低下し、長崎県についても、小中学校男女とも全国平均より下回ったが、継続した取組により全国平均と同レベルもしくは上回るレベルの種目が増加した。
・しかしながら、小・中学校の男女とも柔軟性は全国平均と比べると低く、また、小学校においては筋力の低下が課題である。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

・各学校における課題と取組内容の整合性を図った体力向上アクションプランにおいて、本県の課題である柔軟性を高める運動(ジャックナイフストレッチ)の継続的な実施を県内全ての小・中・高校で位置づけたところ、柔軟性が上昇傾向に転じたが、小学校男女、中学校男女とも全国平均と比べると低いため、今後も引き続き柔軟性の向上のための取組を行う必要がある。また、小学校においては、筋力の低下が引き続き課題であり、筋力の向上につながる力強い動きも体力向上アクションプランに加えて取り組んでいく必要がある。
・各学校における課題に応じた取組を体力向上アクションプランに位置づけて実施することで、課題が改善され体力向上につながるが見えてきた。今後、各学校の体力向上アクションプランに対して、指導・助言を行うことで、さらに充実したものにし、体力向上推進の柱としていく。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

・継続的な学校独自の体力向上アクションプランを作成し、児童生徒の体力向上を図る。
・ジャックナイフストレッチの実施を継続するとともに体力低位の児童生徒の体力向上に取り組んでいく。
・体力向上の実践研究に取り組む小学校体育専科教員の配置拡充を検討する。

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 生涯学習課

基本戦略名	4	生きがいを持って活躍できる社会をつくる
施策名	(1)	いつまでも健康で活躍できる社会の実現
事業群名	⑦	豊かな人生を支える県民の生涯学習環境の整備
事務事業名	4	図書館管理運営費
成果指標		県立図書館から市町立・学校図書館等への蔵書貸出冊数(冊)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
—	32,000冊	20,537冊	× (64%)	36,200冊

※ R1目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【○】達成 \geq 100%、100% $>$ 【△】概ね達成 \geq 90%、90% $>$ 【×】未達成

■R1年度の主な取組

- 長崎図書館は平成30年12月1日から令和元年10月4日まで移転のため休館し、休館中は市町立図書館等への貸出サービス等を停止していた。
- 令和元年10月5日のミライon図書館開館と同時に、各図書館等へのサービスも再開し、チラシの作成やパンフレットの配布などによって各図書館等へ周知を図った。
- 移転に伴う協力貸出システムの変更点などは、図書館職員等の研修会や市町立図書館等への職員巡回において適宜説明を行った。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

- ミライon図書館開館後、利用者の来館による蔵書貸出数は、前年度比224%と大幅に増加しており、このことから、長崎図書館が長崎市から大村市に移転したことによって、今まで市町立図書館等を通じて長崎図書館の蔵書貸出を利用していた県央地区及び県北地区などの利用者が、直接来館し蔵書を借り受けていると考えられる。
- 年度末は新型コロナウイルス感染症対策として、市町立図書館等が休館やサービス縮小のため協力貸出サービスを休止したことも、減少の一因である。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

- これまでの協力貸出サービスの申請方法を改善し、近隣の図書館等を通さず、利用者が直接オンライン上で協力貸出を申し込むことができる新たなシステム(とりよせくん)を導入するなど、協力貸出サービスの利便性向上と機能の充実を図る。あわせて、引き続き県内各市町への職員巡回や週3回の配送による蔵書貸出を行うなど、より一層の支援の充実を図る。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

- 引き続き、離島地区巡回や職員が同乗した協力車巡回、市町立図書館等向けに公開しているインターネット情報共有ページ(情報広場)の活用により情報交換を行い、それぞれの図書館のサービスがより充実するよう支援する。
- 市町立図書館等職員を対象とした研修内容の更なる充実を図るほか、市町立図書館等の新館建設をはじめとする様々な課題において知見の提供を行い、市町立図書館等の運営を支援する。

事業群評価調査 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 義務教育課

基本戦略名	5	次代を担う子どもを育む
施策名	(3)	学力の向上と個性を活かした教育の推進
事業群名	①	変化の激しい社会を生き抜く「確かな学力」の育成
	③	小中一貫教育など特色のある学校づくりの推進
事務事業名	1	長崎県学力調査実施事業
	3	児童生徒の学力向上のための非常勤講師配置支援事業
成果指標		県学力調査で6割以上理解している児童生徒の割合(小・中学校)(%)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
46.4% (H27)	70%以上を 維持	56.6%	× (80%)	70%以上を 維持

※ R1目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【○】達成≥100%、100%>【△】概ね達成≥90%、90%>【×】未達成

■R1年度の主な取組

- 児童生徒の学力を検証するための調査問題を作成し、学力調査(国語、算数・数学)を実施した。
- 学力向上のための各委員会において、学力調査の分析結果と改善策について協議を行うとともに、検証改善のためのモデル授業を実施し、各学校の課題に応じた授業改善に取り組んだ。
- モデル地区にリーディングスキルテスト受検と読解力育成の課題を踏まえた教育実践を委託し、受検結果と実践の成果を基に「長崎県読解力育成プラン」を作成した。さらに小中学校を訪問し、学力向上対策の課題の共有と改善策について協議を行った。
- 学習指導要領の改訂に伴い、小学校ではR2年度から、中学校ではR3年度から全面実施となる新しい教育課程の説明会を実施した。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

- 目標値は達成できなかったが、H27年度の基準値よりも10%程度上昇している。ただし、ここ数年は、若干の伸びが見られるものの横ばい状態にある。
- 目標達成に至らなかった要因としては、本調査は、前年度までの調査における課題や学習指導要領が求める内容を基に出題しており、結果として難易度が高くなることから、その改善が十分な成果に至るまでには、一定の時間及び継続した取組を要するものとする。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

- 「長崎県読解力育成プラン」を活用した実践に取組み、周知を図っていく。
- 「学力向上のための三つの提案」と「長崎県読解力育成プラン」を踏まえた「長崎県授業改善メソッド」を作成し、各学校に配布する。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

- 引き続き、学力向上の検証軸として県学力調査と全国学力・学習状況調査の結果分析を進め、現状の把握と効果的な対策に努める。
- 市町教育委員会と連携を図り、R2年度に作成・配布する「長崎県授業改善メソッド」に基づく診断や相談を行う学校訪問や研修会を実施し、各学校に応じた学力向上に関する課題の改善を進める。

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 義務教育課

基本戦略名	5	次代を担う子どもを育む
施策名	(4)	我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成
事業群名	①	ふるさとを愛し、我が国と郷土長崎に誇りを持つ子どもの育成
事務事業名	1	郷土学習資料作成事業
成果指標		郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)(%)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
79.6% (H26)	100%	82.7%	× (82%)	100%

※ R1目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【○】達成 \geq 100%、100% $>$ 【△】概ね達成 \geq 90%、90% $>$ 【×】未達成

■R1年度の主な取組

○中学生用の副読本「ふるさと長崎県」を改訂し、各学校や関係機関に配布した。地理的分野・歴史的分野・公民的分野・ナガサキトピックス・資料編等で構成されており、主な改訂内容として、「ナガサキ トピックス『SDGs未来都市』壱岐市の取組」、「『しま』は長崎県の宝!!シリーズ3～壱岐市～」などを新規に掲載し、全編にわたり数値等の修正を行った。
○活用については、社会科や総合的な学習の時間での資料としての活用や、朝読書での活用など、各学校での活用の工夫が図られている。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

○各小中学校においては、社会科や総合的な学習の時間などで郷土学習資料等を用いて我が国の伝統や文化、郷土長崎に関する学習が確実に行われている。
○8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしていることから、一定の成果は見られるが、目標値達成のためには、ふるさとの良さや魅力を学ぶだけでなく、ふるさとの未来を創るという主体性を育むことがより重要になってくる。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

○「ふるさと長崎県」の内容の充実を図るとともに、「ふるさと長崎県」を活用した実践事例を発信し、各学校においてさらなる効果的な活用を促す。
○ふるさと教育とキャリア教育をつなげた「ふるさとを活性化させるキャリア教育充実事業」を実施し、学校が地域と連携・協働し、ふるさとを活性化しようとする探究的な学習の充実を目指す中で、「ふるさと長崎県」の効果的な活用を各学校に促す。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

○「ふるさと長崎県」の内容の充実を図るとともに、「ふるさと長崎県」を活用した実践事例を発信し、各学校においてさらなる効果的な活用を促す。
○郷土を理解する「ふるさと教育」の取組みを継続するとともに、地域や学校の状況を踏まえつつ、地元市町等の協力を得ながら、教科や総合的な学習の時間等において、地域課題の解決策の提案や魅力発信等を通して、ふるさとへの愛着や誇りとともに地域を担おうとする実践力の育成を図る。

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 高校教育課

基本戦略名	5	次代を担う子どもを育む
施策名	(5)	グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり
事業群名	③	高等学校における特色ある国際理解・外国語教育の推進
事務事業名	4	長崎から世界へ！高校生グローバルチャレンジ
成果指標		本事業対象校において高校又は大学で長期海外留学を希望する生徒の割合(%)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R1 最終目標値
-	76%	62%	× (81%)	76%

※ R1 目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【○】達成≧100%、100%>【△】概ね達成≧90%、90%>【×】未達成

■R1年度の主な取組

英語・中国語・韓国語を学ぶ生徒への海外での語学研修の機会の提供や、長崎県スーパーグローバルハイスクール支援事業の対象校におけるグローバルな課題をテーマにした探究的な学習の支援、国内外における課題解決型探究学習の支援を行った。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

新型コロナウイルス感染症の影響等で、海外研修の機会や、海外研修に参加した生徒の成果を共有する機会の設定が例年よりも難しかった。単に研修の機会を設けるだけでなく、海外留学や海外に視野を広げることの意義について、生徒たちに理解させるための工夫が重要である。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

語学研修の参加者については、語学学習への意欲向上にもつながっており事業の効果は大きかった。令和2年度以降は、WWLコンソーシアム構築支援事業を通じて、拠点校のみならず連携校にも取組を広げ、グローバル社会で活躍できる人材を育成し、さらなる成果の普及を進める予定である。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

令和3年度も引き続きWWLコンソーシアム構築支援事業を通して、グローバル人材の育成に取り組んでいく。最終的には、グローバルな視野や課題発見・解決能力が身についたと思う生徒の割合80%、本事業拠点校において海外研修等に参加した生徒数(修学旅行を除く)50人を最終目標とする。

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 生涯学習課

基本戦略名	5	次代を担う子どもを育む
施策名	(7)	「地域みんなで子どもを育み、家庭教育を支援する」体制づくり
事業群名	③	家庭教育支援の充実
事務事業名	1	家庭教育支援対策事業
成果指標		「ながさきファミリープログラム」の参加者数(人)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
11,380人 (H28)	14,000人	12,375人	× (88%)	14,000人

※ R1 目標値に対する達成状況は達成率により区分: 【○】達成 \geq 100%、100% $>$ 【△】概ね達成 \geq 90%、90% $>$ 【×】未達成

■R1年度の主な取組

○ファシリテーター認定やフォローアップの研修会を大村市、松浦市、壱岐市、時津町で実施した。県と市町の共催型研修会として、認定・フォローアップの研修会を長崎市で実施した。なお、3月に南島原市で共催型研修会を実施予定であったが、新型コロナウイルス対策のため中止した。
○家庭教育アドバイザーをのべ6市町、11会場に派遣し、「家庭教育講座」を実施した。また、アドバイザーの認定・フォローアップ研修会を3月に計画していたが、新型コロナウイルス対策のため実施できなかった。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

○2月から3月にかけて、新型コロナウイルス感染症のために本プログラムが実施できない状況となり、年度末に実施回数が増えなかった。
○短時間で実施可能なプログラムなど、依頼団体のニーズは多様化しており、新たなプログラムの形の提案や、それらに対応できるファシリテーターの更なる人材育成が必要であった。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

○プログラムの実施回数が少ない市町を中心に、家庭教育支援担当者へ周知・活用の更なる働きかけを行う。また、これらの市町で、県主催の認定・フォローアップ研修会を実施する。
○プログラム参加者の満足度調査や依頼団体のニーズをもとに、プログラムの改善を行う。
○様々な参加者ニーズに対応できるように、ファシリテーター認定・フォローアップ研修会の内容の充実を図る。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

○ファシリテーターの資質向上を図るために、専門性の高い講師による講義を取り入れた研修会を実施し、人材育成を強化する。
○対象者を中高生や祖父母等に拡大した新しい形のプログラムを提案するとともに、保護者以外の様々な立場の人に家庭教育について学ぶ機会を提供する。
○親子参加型イベントにおける体験版「ながさきファミリープログラム」の提供や、県ホームページを活用した動画配信などを通して、本プログラムの周知・啓発の強化する。

事業群評価調書 成果指標未達成状況調査票

課(室)名 義務教育課

基本戦略名	6	産業を支える人材を育て、活かす
施策名	(1)	キャリア教育の推進と企業人材の育成
事業群名	①	キャリア教育・職業教育の推進
事務事業名	1	ふるさとを活性化するキャリア教育充実事業
成果指標		ふるさとのためにできることを考える拠点校の生徒の割合(%)

基準値 (年度)	R1 目標値 (A)	R1 実績値 (B)	R1目標値に 対する達成状況 (B/A)	R2 最終目標値
—	100%	79.7%	× (79%)	100%

※ R1目標値に対する達成状況は達成率により区分：【○】達成≥100%、100%>【△】概ね達成≥90%、90%>【×】未達成

■R1年度の主な取組

○ふるさとを活性化しようとする職業体験学習プログラムの開発・普及のため、市町立中学校6校を拠点校として指定し、研究を進めた。
○拠点校の取組状況をリーフレットにまとめて発信することで、ふるさとを担う実践力の育成を視野に入れたむキャリア教育の在り方についての認知度を高めることができた。

■R1年度目標値が達成できなかった要因分析

○拠点校の研究は着実に進んでおり、ふるさとに主体的に関わろうとする体験学習プログラムの開発や実践が行われるようになった。一方、各拠点校は試行錯誤を重ねながら学習活動の改善を行っている段階で、ふるさとの未来を担う実践力の育成に資する教育活動の充実に向け、現在取組をすすめている状況である。

■R2年度の取組(従来の取組の充実・改善、新たな取組等)

○R1年度より指定校を2校増やし、8地区8中学校を研究校として指定する。さらにその8校の実践を基に、学校が地域と連携・協働し、ふるさとを活性化しようとする探求的な職業体験プログラムを開発し、これを県内に普及させることで、ふるさとへの愛着や誇りとともに地域を担おうとする実践力の育成を図る。

■R3年度以降の取組(最終目標達成に向けての更なる取組)

○ふるさと教育とキャリア教育をつなげた「ふるさとを活性化するキャリア教育充実事業」の取組みを継続するとともに、地域や学校の状況を踏まえつつ、各市町等の街づくり担当部局等の協力を得ながら、教科や総合的な学習の時間等を充実させ、地域課題の解決策の提案や魅力発信等を通して「ふるさとに貢献したい」という意識と実践力の育成に努める。

